

平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

令和元年 5 月 16 日

代表者 樋口 一 貴

研究課題名	世界各地の博物館・美術館における東アジア美術の常設展示および特別展覧会企画と展示方法の比較研究
研究期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
共同研究者	
1. 今年度の研究概要	
<p>平成 27 年度、本学に文芸文化学科が新設され、学科内に学芸員資格取得課程が設置された。平成 30 年度はその完成年度に当たる。研究代表者は本課程の科目のうち「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館実習 I」「博物館実習 II」「芸術と人間」を担当している。本研究によって得られた世界各地の博物館・美術館の展覧会企画や展示方法の実態に関わる知見を比較しつつその多様性を示すというかたちで、同課程の講義において公表し、課程履修学生の学びに活かす。</p> <p>ここで対象を東アジア美術に限ったのは、大きく 3 つの理由による。第 1 に、研究代表者の専門領域が日本美術史であることである。第 2 に、東アジアの美術工芸品は、西洋のそれに比べて脆弱であり、博物館・美術館はよりデリケートな保管・展示の環境を整備しているためである。第 3 に、本学学生が日常的に見学することのできる国内の博物館・美術館の収蔵品は、主に日本美術作品や日本に伝来した東アジア美術作品であるため、同種類の展示作品レベルが内外の施設で如何に展示されているか比較しやすい。</p> <p>以上の理由から、本研究は、本学文芸文化学科の特色である学芸員課程の平成 30 年度の完成へ向けた博物館学諸領域と、研究代表者の専門である美術史学の学際的教育研究である。また、大学改革特別経費「東京国立博物館・国立西洋美術館キャンパスメンバーズ」および「平成 30 年度学芸員資格取得課程の完成をめざした教育プログラムの改善」と密接に関連することでその基盤となる学際的教育研究である。さらに、本研究で得られた知見を学芸員課程の授業に還元することで授業内容の一層の充実を図り、本学で学芸員資格を取得する学生が幅広い知識を学んで、今後の生涯学習がより重視される社会において専門的な分野で活躍する契機になるものである。</p> <p>平成 30 年度は、スイス、イギリスおよび愛知、静岡、奈良の博物館・美術館に出張し、展覧会担当学芸員と意見交換を行った。これと並行して図録・文献資料の収集を行った。</p>	

2. 研究の成果

海外でのフィールドワークとして、9月にスイス・チューリッヒのリートベルク美術館を訪問した。同館では江戸時代の絵師、長沢芦雪に関する特別展が開催された。日本の国内外から作品を集めた大規模な展覧会であった。同展担当の学芸員、トリン・カーン氏に面会し、展覧会における学芸員の立場に関わる情報について意見交換した。また、同館の収蔵庫を案内してもらい、展示室を兼ねた収蔵庫という日本にはないシステムについての興味深い知見を得た。

続いて、スイスからイギリス・ロンドンへと移動し、大英博物館を訪問した。同館の日本展示室は年初から改修のため閉室していたが、訪問前日にリニューアルオープンしたばかりであった。学芸員、矢野明子氏から床と天井の改修部分とその意図・効果について説明を受けた。また、学芸員、ティモシー・クラーク氏、ニコル・ルマニエール氏とも意見交換した。

以上の、収蔵庫、展示室床、天井といった博物館施設に関する新鮮な生の知見は、帰国後直ちに学芸員課程の諸授業で教材として活かした。長沢芦雪については、美術史学関連の授業で紹介した。

国内では、9月23、24日に、愛知・田原市博物館「特別展 開館25周年記念 渡辺華山の神髄」、名古屋ポストン美術館「最終展 ハピネス～明日の幸せを求めて」、徳川美術館「特別展もじえもじ—文字が絵になる、絵が文字になる—」、静岡県立美術館「幕末狩野派展」を見学した。いずれも日本美術、特に江戸時代絵画が出陳されている。

3月2日には、愛知・メ〜テレにて浮世絵調査を実施した。その成果は、令和元年10～11月に町田市立国際版画美術館で開催される「美人画の時代」展の図録所収論文に反映される予定である。調査終了後、名古屋市博物館「特別展 挑む浮世絵 国芳から芳年へ」を見学した。

3月10日に、奈良県立美術館「姿の美、衣装の美… 肉筆浮世絵」を見学した。浮世絵に関する展覧会见学は、町田市立国際美術館の展覧会の参考となる。

このほか首都圏で開催される特別展の内覧会に出張した。内覧会に出席することは、美術館の現場の声を聞く機会であり、またコレクターとの交流の場ともなる。内覧会で展覧会カタログを入手することにより、いまだ蔵書数の少ない学芸員課程の参考書籍を増やすことにもつながっている。

本プロジェクト研究は、代表者が担当しているところの平成30年度大学改革特別経費「東京国立博物館・国立西洋美術館キャンパスメンバーズ」および「平成30年度学芸員資格取得課程の完成をめざした教育プログラムの改善」と連動する部分が大きく、代表者が担当する講義を通じて、学生の博物館・美術館への関心を高め、実際に博物館に行くように指導している。30年度大学改革特別経費「博物館 キャンパスメンバーズ」によって東京国立博物館と国立西洋美術館の常設展示を学生が無料で鑑賞できるようになったことは、学生の経済的負担を軽減させつつ関心を持たせる点で、たいへん有益であった。わが国の博物館・美術館のうち、日本古美術を代表する東京国立博物館と、西洋美術を代表する国立西洋美術館という上野駅周辺の2館が利用できるのは博物館教育の一層の充実につながる。

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

授業

国内外の博物館・美術館の規模や収蔵品の特徴、展覧会運営のスタイル等の情報や知見、また、博物館・美術館の図録やDVDの映像資料は、平成30年度研究代表者が担当する学芸員課程の諸講義にて、随時学生に伝達している。

博物館・美術館・個人所蔵家のもとで作品調査を行った際に得られた情報は、美術史関連諸講義（「芸術と人間」「テーマで触れる芸術」「文芸文化特講」）の講義に活かしている。

代表者の専門領域である江戸時代絵画について、以下の公表実績・予定の一部は、本研究の一部である。

著書

（編著）『第八回鳥居清長忌展覧会 架橋三六〇年記念 二日間だけの両国橋ワンダーランド』回向院（令和元年5月）

（共著）『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房（令和元年6月刊行予定）

論文

（単著）『美人画の時代』展図録所収論文 町田市立国際版画美術館（令和元年年10月刊行予定）

研究発表

タイトル未定 国際浮世絵学会 町田市立国際版画美術館 令和元年10月14日

講演

演題未定 町田市立国際版画美術館 令和元年10月20日